

# 評価ツールで学習者の自律性は育めるか

ーフィリピンの高校生向け日本語リソース型教材『enTree』の挑戦ー

大船ちさと・和栗夏海・フロリンダ アンパロ A パルマヒル・  
フランチェスカ M ヴェントウーラ

〔キーワード〕 目標と評価対象、内省する力、学習をモニターする力、管理する力、開発者と実践者の協働

## 〔要 旨〕

フィリピンでは2009年6月から教育省により日本語が選択外国語科目として試験的に導入されたことを受け、報告者らは高校生向け日本語リソース型教材の開発に取り組んでいる。教育省の掲げる目標を受け、本教材ではフィリピンの高校生が身に付けるべき力を、「Curiosity」を有し「Self-improvement」しながら、「Discover and Fulfill one's MISSION」を目指すものと位置づけた。そして、これらの力を身に付けたか否かを確認する方法として、【内省する力】、【学習をモニターする力】、【管理する力】を見ることにした。学校教育では期末試験として筆記試験が実施されることが多いが、これらの力の評価には適さないため、報告者らは筆記試験では測れない力を測る評価ツールの開発を試みた。本稿では、この評価ツールの概要と開発にあたり考慮した点、現場からのフィードバックについて報告する。

## 1. はじめに

国際交流基金が2009年に実施した「2009年海外日本語教育機関調査」の速報値によると、全世界の学習者数は約365万人となり、そのうちの54.9%を中等教育の学習者が占める。初等教育と合わせると、その率は60.5%となり、前回の2006年調査と比較し、初中等段階の学習者数は約30%の増加率である。この著しい増加は、近年、中高校において英語以外の外国語が必修選択や自由選択科目として教育制度に取り入れられるといった各国の教育政策の影響を受けている。2008年に釜山で開催された「日本語教育国際研究大会」では「初中等教育における日本語教育の教育理念と目標」と題したパネルセッションが開かれたが、グローバル化が進み、人・物・情報の移動が活発になる現在の社会において、多様な言語や文化的な背景をもつ人びととコミュニケーションできる人材、情報化社会に対応できる人材、新たな問題解決・価値の創造ができる人材を育成することが各国で共通して目標に掲げられていることが確認された<sup>(1)</sup>。つまり、外国語科目としての日本語には「人間教育」、「人間性の育成」といった側面が期待されているのである。

では、これらの「人間教育」を目標の一つに据える場合、その目標の達成状況はどのように

評価できるだろうか。言語の力の評価に関しては、文法、言語機能、社会言語などの観点から、筆記試験や口頭試験、聴解試験などで測定される例が多く、それらの評価の妥当性、信頼性を高めるための研究がなされてきている。しかしながら、筆記試験や口頭試験、聴解試験といった形式では、上述の「人間教育」の側面を測定することは困難である。また、トムソン (2008) は「日本語教育」は「日本語」と「教育」の2つの語からなり、「日本語」の評価に関しては目標の明示化を多くの教師が行っているが、「教育」に関する目標を意識的に標示している教師は少ないのではないかと指摘している。確かに中等教育機関における日本語教育は上述のとおり、言語力以外の目標も合わせて掲げられていることが多いにもかかわらず、評価は筆記試験のみという事例が散見され、言語以外の側面をどのように育成し、どのように評価していくのかに関する実践報告はまだ多くない。また、学習者中心の考え方や自律的な学習者を育てることの重要性が指摘されるようになって、学習者参加型のポートフォリオ評価や自己評価を取り入れる動きも見られるが、学習者数が多い機関では、こういった評価を取り入れることにより増大する教師の負担が指摘されている (横溝2002)。しかしながら、目標として掲げるからには、その目標を達成したかどうかを測ることが必要不可欠の事項であり、評価の際には必ず考慮されるべきである。

フィリピンでは2009年6月より日本語が高校<sup>(2)</sup>の選択外国語科目として導入されることになり、国際交流基金マニラ日本文化センター (以下、JFM とする) は教育省の要請を受け、カリキュラム及び教材開発、教師研修に全面的に協力している。開発中の教材の目標にも「人間教育」の側面が含まれている。そこで、報告者らは「人間教育」の側面の目標の達成度を測るための多人数クラスでも実践可能な評価ツールの開発に取り組んだ。本稿では、その評価ツールの概要と、それを用いて高校生の自律性を育もうとする実践について報告する。

## 2. フィリピンにおける中等日本語教育概況

### 2.1 経緯

フィリピンの中高等教育では、1973年のスペイン語教育を最後に英語以外の外国語科目が正式科目として教えられてこなかった。しかし、2008年12月、フィリピン政府は、2009年6月より公立高校で実験的に選択外国語科目を導入することを決定し、2009年6月にはスペイン語、フランス語、日本語の3言語のガイドラインを発表した (DepED Order No. 55, s. 2009)。同科目は週2時間×2年間のプログラムで、対象者は3年生と4年生が想定されている。教育省が掲げた目標は、第二外国語におけるコミュニケーション能力の向上、世界中の様々な就業の場で活躍する力、及び異文化への寛容的な態度の育成である。評価の方法は、診断的評価、形成的評価、総括的評価を用いることが推奨されており、成績は英語科に準じ、「Periodical test : 25%、Participation : 30%、Performance : 30%、Project : 15%」でつけるとされている。

報告者らは、この選択科目で使用する日本語教材の開発に2009年10月から3年間の計画で取り組んでいる<sup>(3)</sup>。教材はトピックシラバスを採用した教師用教材で、以下の構成である<sup>(4)</sup>。

タイトル：『enTree –Halina! Be a NIHONGOJIN!!』(以下、『enTree』とする)<sup>(5)</sup>

- a) レッスンプラン／教師用参考資料 (16ユニット×2年) \* 1ユニットは4セッション
- b) ワークシート
- c) 素材集 (写真パネル、フラッシュカード、レアリア等)
- d) 評価キット

## 2.2 『enTree』のコンセプトと評価

教材を開発するにあたり、報告者ら教材開発チームは上述の教育省が定めた目標を満たし、さらにフィリピンの社会問題を克服していくためにフィリピンの高校生が身に付けるべき力を「Curiosity」を有し「Self-improvement」しながら、「Discover and Fulfill one's MISSION」を目指すものと位置づけ、教材コンセプトとして掲げることにした (図1 参照)。

図1：教材コンセプト



ここでいう「MISSION」は自分自身で発見していくべきものであり、また、自身の成長に伴い、そのステージごとに変化し続けていくもの、つまり可変的なものと捉えている。このステージごとに変化する「MISSION」を見つけていくためには、自らをモニターする力が不可欠である。この力は、いわゆる筆記試験や学期末に実施される形成的評価や総括的評価だけで測定できるものではない。また、「Curiosity」を有しているか、「Self-improvement」をしようとしているかも同様に、従来の筆記試験で測定できるものではない。では、如何にして評価できるか。報告者らは「Curiosity」を有しているか否かについては、自身の気づきや発見に対してどの程度内省できているかという【内省する力】を見ることで評価できると考え、また、「Self-improvement」については、自分の学習を振り返る【学習をモニターする力】、及び、ワークシートなどを整理、保管する【管理する力】を見ることで評価できるのではないかと考えた。そこで、これら3つの力を備えているかどうかを評価できるツールの開発を目指した。

### 3. 評価ツールの開発プロセス

報告者らは教材の開発と並行し、評価ツールの開発に取り組んだ。開発したツールは、2010年4月、5月に実施した現職高校教師を対象とした研修で試用し、多人数クラスでの実践の可能性などを含め研修生からの評価を経て、改訂を加えた。2010年6月からは現場で改訂版を用いて試用している。現場からのフィードバックは毎月開催しているフォローアップ研修で受け、形式と内容の妥当性と信頼性の検証を試みている。現場からのフィードバックに基づき、必要に応じ、改訂を加え、来年度の実践に備える計画である。

### 4. 『enTree』の評価ツール

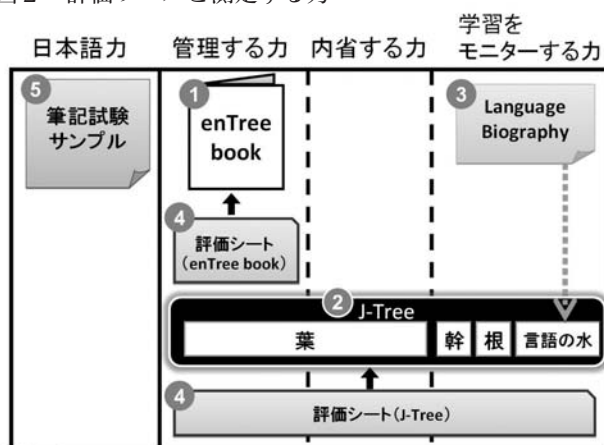
#### 4.1 評価ツールと育成する力との関係

『enTree』では、2.2節で述べたとおり「Discover and Fulfill one's MISSION」を目指しており、そのために必要な力として【内省する力】、【学習をモニターする力】、【管理する力】を育成することが必要であると考えた。これらの力は、筆記試験のようにある時点の能力を評価するのではなく、プロセスを評価対象として初めて測定できるものであろう。そこで、学習者自身と教師が学習の成果と思考を可視化することが必要だと考え、次の評価ツールを開発した。ツールと評価する力の関係は図2のとおりである。

図2：評価ツールと測定する力

- (1) enTree book
- (2) J-Tree
- (3) Language Biography
- (4) 評価シート  
(enTree book/J-Tree)
- (5) 筆記試験サンプル問題

各ツールについては、4.2節で詳述するが、(1)の「enTree book」は学習の記録を残すファイルのよ



うなもので、【管理する力】を見る。(2)の「J-Tree」は日本語の学習と内省を記録するためのシートで、木の形をしている。「葉」、「幹」、「根」、「言語の水」の4パートに分けられ、それぞれが【管理する力】、【内省する力】、【学習をモニターする力】を測定する機能を担う(巻末資料3参照)。(3)の「Language Biography」は現在の言語使用状況を記述するもので、(2)の「J-Tree」の「言語の水」と関連している。(4)の「評価シート」は、「enTree book」を評価するためのものと、「J-Tree」を評価するためのものの2種類があり、数値化で

きるように設計した（巻末資料1、および2参照）。また、日本語力を測定するために、（5）のとおり筆記試験のサンプル問題を用意している。

2.1節で教育省の評価に関するガイドラインを示したが、実際の成績処理の際には、教師が各自の学校の規定や自身の教育方針に従い、筆記試験、「enTree book」の評価、「J-Tree」の評価、更にプロジェクトワークの評価などを自由に組み合わせることができるようにした。

## 4.2 評価ツールの概要

評価ツールの開発にあたり、何をだれがどのように評価するのかについて検討を重ねた。ここでは、開発した評価ツールについて、【学習をモニターする力】、【内省する力】、【管理する力】の順に論じる。

### 4.2.1 学習をモニターする力

【学習をモニターする力】を育成し評価するツールとして、「Language Biography」、「J-Tree：言語の水、幹、根」（図3、および巻末資料3参照）、そして「評価シート（J-Tree：幹、根）」がある。

「Language Biography」とは、学習者が自身の言語使用状況を振り返るためのシートで、最初の授業で用いる<sup>(6)</sup>。多言語社会のフィリピンでは複数言語を日常的に操っている。このシートは学習者がどの言語をどんな場面で使用しているのかを意識化する役割を担い、ここで記述した言語は「J-Tree：言語の水」にも記入する。自分の言語使用状況を振り返ることで、複数言語を操っている自分に誇りを持ち、現在操ることができる言語の学習経験や知識は日本語の学習に役立つことを伝える目的も兼ねている。

また、「Language Biography」には、これから学ぶ日本語ではどのようなことができるようになりたいのか、目標を設定する欄も設けている。この目標は高校の授業の中で達成することが目的ではなく、生涯学習の観点からの目標も歓迎される。よって、学習の途中で目標を変更することも推奨される。

現時点での言語使用状況を振り返り、ゴールを設定した後、日本語学習がスタートする。各Unitが終わると、「J-Tree：幹」を使って、自分の学習を振り返る。ここには、言語の目標がCan-do statementで記述されており、できるようになったことにチェックをするようになっている。また、Can-do statementの後半は空欄になっており、学習者は熟達度や自信の程度、そして記入した日付を自由に書き足す。この熟達度や自信の程度というものは、時間の経過に伴い変化するものなので、学習者は時折自分の状態

図3：J-Tree



を振り返り、書き換えていくことが求められる。

例：I can do self-introduction by saying my nickname and my favorite word *slowly* (June 30):

*slowly but with more confidence* (July 6). *fluently* (July 15)

上記の例では、時間の経過に伴い熟達度や自信の程度が高くなっているが、必ずしも高くなる必要はなく、熟達度や自信の程度の低下も大切な振り返りであり、歓迎される。

年4回行われる期末試験後には、「J-Tree：根」の部分に、現時点で自分自身ができること、できないことを振り返り、学習計画を立てて記述する欄を設けた。

【学習をモニターする力】の評価基準を示すものとして「評価シート（J-Tree：幹、根）」を作成した。「J-Tree：幹」の部分はループリックで基準が示されており、「J-Tree：根」の部分は Yes/No の質問形式となっている。

「J-Tree：幹」のループリックは表1のように設定した。このループリックを含め、評価シートに記載されている評価基準は、授業のはじめに教師が学習者に公表し、共有する。ループリックは4段階とし、最高得点となる「Outstanding Achievement」を達成した学習者が次に目指すべきこととして「Next Step」を設けた。しかし、あくまでもゴールは「Outstanding Achievement」であるため、数値化するには両者は同得点とするように設定した。

表1：「評価シート（J-Tree：幹）」のループリック

1. Ability to Monitor One's Progress Written on the Trunk

Minimal Achievement	Some Achievement	Commendable Achievement	Outstanding Achievement	★ Next Step
The student <u>did not</u> write words and the date on all the blanks to describe his/her progress at all.	The student wrote words and the date on <u>some of the blanks</u> to describe his/her progress.	The student wrote words and the date on <u>all the blanks</u> to describe his/her progress.	The student wrote words and the date on <u>all the blanks</u> to describe his/her progress. In addition, the student <u>updated</u> the words he/she wrote to describe his/her own progress <u>at least once</u> within this quarter.	The student wrote words and the date on <u>all the blanks</u> to describe his/her progress. In addition, the student <u>updated</u> the words he/she wrote to describe his/her own progress <u>more than twice</u> within this quarter.

\*Note: The words and the dates written to describe one's progress are considered as pairs. If one of these two is missing, it is considered as not written on the blank for that particular Can Do Statement.

学習者が目指す「Outstanding Achievement」の内容は、Can-do statement の後半部分の空欄に熟達度と日付が記入してあり、更にそれが1回は書き換えられ更新されていることである。更新されていなかったり、後半部分に記述がなかったりすると評価が下がる。次の目標「Next Step」は、2回以上書き換えていくことである。

このループリックの開発にあたり考慮した点は、熟達度の高低で評価するのではなく、自身の熟達度を振り返っているか否かを評価している点である。学習はある一時点で完結するものではなく、継続し変化するものである。また、『enTree』の理念である「Self-improvement」が



できる人材を育成するためには、ある時点で能力が高いか低いかということよりも、変化する自身の現状を把握する力が必要であると考えた。

「J-Tree：根」の部分は、学習計画が書かれているか否かを Yes/No で評価するようになっている。この部分をループリックにしなかったのは、教師が評価者となる場合、全ての学習者の学習計画を読み評価することが大きな負担となり、評価シート自体を活用してもらえない可能性が生じることを考慮したためである。

#### 4.2.2 内省する力

【内省する力】を育成し評価するツールとして、「J-Tree：葉」（図3参照、および巻末資料3参照）と「評価シート（J-Tree：葉）」（巻末資料2参照）がある。

「J-Tree：葉」は、学習者自身が内省したことを記入するものである。毎回授業の最後に5分程度で授業を振り返り、一枚の葉に授業を通して学んだこと、気づいたこと、発見したことを英語やフィリピン語など学習者自身が一番表現しやすい言語で書く。はじめに用意されている葉は8枚のみで、学習者は自身で葉を付け足し、どんどん大きく育てていく。1年後には、学習者一人一人の異なる個性的な木が育つという設計である。

評価の基準は表2のループリックの通りである。具体的に授業で学んだことが記述しており、更に、自分の意見やアクションプラン、経験と関連付けて気づいたことなどが書かれているものが最も高く評価される。逆に、具体性に乏しかったり、自分の意見やアクションプランなどが書かれていないと評価が低くなる。次の目標「Next Step」は、授業後、自分で試したこと、調べてみたことを追記していくことである。

ループリックの開発にあたり考慮したのは、以下の2点である。

1点目は、「Outstanding Achievement」の内容、つまり最も高く評価する内容である。ここでは、学習者の意見やアクションプランなどがよいか悪いかということは評価に含んでいない。春原（2008）が尺度・評価基準を共有せずに評価に関わることの危険性と怖さを指摘しているとおり、意見やアクションプラン自体を評価することは容易なことではない。また、『enTree』では理念として「Discover and Fulfill one's MISSION」を掲げており、各学習者が異なる意見やアクションプランを持つことこそが教材の理念に近づくことにもなる。そこで、意見やアクションプランの有無、気づいたことなどを経験と関連付けて記述したか否かという内省の深さや広がりを経験対象とした。目標とするのは自分の感情や思考を整理して表現できるようになることである。また、ここは学習者自身の母語で記述する。母語の力と外国語の力の発達には関係があるとも言われており、母語での表現力、記述力を高めることができれば、日本語の能力の向上にも何らかの貢献が得られる可能性もある。

2点目は、多人数クラスで学習者が記述したものを教師が評価する方法である。フィリピン

表2: 「評価シート (J-Tree: 葉)」のループリック

## 1. Ability to Reflect with Depth in regards to One's Discovery, Curiosity and Self-improvement

Minimal Achievement	Some Achievement	Commendable Achievement	Outstanding Achievement	★ Next Step
The student wrote <b>simply</b> or the <b>wrong information</b> .	The student wrote what he/she learned <b>specifically</b> , like giving examples of the points compared and the names of things discovered.	The student wrote what he/she learned <b>specifically</b> , like giving examples of the points compared and the names of things discovered.  In addition, the student also discussed any of the following <b>simply</b> in his/her reflection: →one's own impression (ex: It was interesting!) →one's one observation/ opinion/ argument/inference →one's own plan of action →questions regarding things that he/she wanted to know more →connection of things realized/discovered to one's own experience →others	The student wrote what he/she learned <b>specifically</b> , like giving examples of the points compared and the names of things discovered.  In addition, the student also discussed any of the following <b>deeply and specifically</b> (e.g. with reasons/details/examples) in his/her reflection: →one's own impression →one's one observation/ opinion/ argument/inference →one's own plan of action →questions regarding things that he/she wanted to know more →connection of things realized/discovered to one's own experience →others	In addition, the student also <b>added a further reflection</b> which includes any of the following after the day he wrote the idea: → trying out or putting one's realization or discovery into action in one's daily life → an attempt to research or do a further study on his/her own regarding the things that he/she did not understood well →others

の高校では、一人の教師が抱える生徒数は平均70人と多い。また、日本語を担当している教師は社会科や英語科などの授業も担当しているため、その業務量を考えると学習者全員の内省 (J-Tree: 葉) を全て読むことは大変な負担となる。そこで、まず学習者自身に最もよいと思う内省の葉を3枚選ばせ、それを教師が評価することとした。学習者にとっても、評価を受ける葉を選択することは、自身の内省を振り返ったり、ループリックの内容を再確認したりする機会となる。

## 4.2.3 管理する力

「管理する力」を育成し評価するツールとして、「enTree Book」(図4 参照) と「評価シート (enTree Book)」(巻末資料1 参照)、「J-Tree: 葉」(巻末資料3 参照) と「評価シート (J-Tree: 葉)」(巻末資料2 参照) がある。

「enTree Book」とは、学習者自身が作る教科書のような役割を果たすもので、自宅にある古雑誌を活用し、作成する。学習者は持参した古雑誌に表紙をつけ、その中にワークシート、テスト用紙、クイズや宿題などの全てを貼りつける。

評価の基準は表3のループリックの通りである。ループリックは2項目に分かれている。最も高く評価される「Outstanding Achievement」は、1つ目は、全ての配布物が貼られており、更に正しい順番に並んでいること、2つ目は、貼られているもの

図4: enTree book





表3：「評価シート（enTree book）」のルーブリック

**2. Evaluation (evaluator's name: \_\_\_\_\_)**

**2.1 Are all of the materials pasted in your "enTree book"? Write the number in the evaluation box.**

Minimal Achievement (0)	Some Achievement (10)	Commendable Achievement (15)	Outstanding Achievement (20)	Next Step (20)
Less than 65% of materials are pasted.	At least 65% of materials are pasted.	All of the materials are in "enTree book", but some materials have not been pasted and not properly ordered.	All of the materials are pasted on "enTree book", and properly ordered.	In addition to all of the materials pasted on "enTree book", original ideas are used to keep the "enTree book" clean and intact like using plastic cover, masking tape among others.

**2.2 Are the titles and the learning dates written on each entry? Write the number in the evaluation box.**

Minimal Achievement (0)	Some Achievement (10)	Commendable Achievement (15)	Outstanding Achievement (20)	Next Step (20)
No title of Unit and learning date is written.	Few entries have the title of Unit and the learning date.	Some entries have the title of Unit and the learning date.	All of each entry has the title of Unit and the learning date.	Besides the title of unit and the learning date, there are original ideas to look for a certain material easily like making tabs with the unit no. on it or highlighting the title and the date.

全てにユニットのタイトルと学習した日付が書かれていることである。

「enTree Book」のルーブリック開発にあたり考慮したのは、以下の2点である。

1点目は、【管理する力】のみを評価対象にしたことである。当初、学習者が教室外で自分で調べて学習していることなども評価対象とするか否か議論があった。しかし、現場の教師から、学習者は他の教科でも同様のものを作成するよう求められており、日本語が選択科目ということとを考慮すると、教室外の学習を暗に促すような評価基準は学習者の負担が大きくなりすぎるとの意見を受けたため、【管理する力】のみを評価対象にすることとした。ただ、学習者の努力や工夫を伝える方法として、評価シートに学習者自身が自分の「enTree book」についてアピールしたい点を記述できる欄を設けた。また、評価者からのコメント欄も設け、ワークシートの記述内容や完成度などについての感想を書き、持ち主にフィードバックするようにした（巻末資料1参照）。

2点目は、評価者を各教師が決められるようにした点である。教師自身が必ずしも評価者になる必要はなく、学習者同士や保護者が評価者になることも可能である。

【管理する力】を育成し評価するツールとして、他にも「J-Tree：葉」と「評価シート（J-Tree：葉）」がある。これは、各葉にユニットとセッションの番号、日付が書かれているか否か、追加で貼った葉が見やすく貼られているか否かを Yes/No で答える形となっている（巻末資料2参照）。

## 5. 現場からのフィードバック

2010年6月からマニラ首都圏の14校の高校生、約2,000名が『enTree』を用いて日本語の学習を開始し、4章で述べた評価ツールの試用を始めている。3章で述べたとおり、高校において使い始める前に、JFMが2010年4月、5月に行った教師研修において試用して、改訂を加えているが、教師と高校生では当然、認知力、判断力、内省力などに差があり、高校生の学習に効果的か否かが不安であった。特に内省については、高校生がループリッックを活用し内省できるのか、ループリッックに沿って内省が書けるのかという懸念があった。そこで、毎月開催される高校教師のためのフォローアップ研修で、評価ツールの妥当性についてディスカッションの場を持ち、現場からのフィードバックを得た。本章では、現場からのフィードバックについて紹介する。

### 5.1 フィードバック：学習をモニターする力

【学習をモニターする力】については、「学習者はユニットが終わると、何ができるようになったか、『J-Tree：幹』にある Can-Do statement に嬉々としてチェックをしている」「どんなことができるようになったか、次に何ができるようになるかを楽しみにしている。さらに、その項目がどの程度できるかを自慢げに書き込んでいる」といったコメントが得られた。

ただし、報告者らが「J-Tree：幹」の記述で重視しているのは、4.2.1項で述べたとおり、恒常的に、少なくとも定期的に自分の達成状況を振り返り、熟達度をモニターする力である。しかしながら、現時点では熟達度を書き直している学習者は限られていて、報告者らが授業見学に行った際には、何も記述していない例も散見された。これは、毎回、「J-Tree：葉」の部分に内省を記述することに時間をとられ、幹の部分に記入した自身の熟達度についてまで意識をめぐらせる余裕がないというのが現状のようである。教師からも、このように恒常的に自身の学習をモニターするということに学習者も教師も慣れておらず、教師自身が十分に学習者をサポートできていないという声があった。【学習をモニターする力】を身に付けることと、その評価基準については、現場の教師は賛同しており、自身の日々の実践の中で、今後は学習者の意識化を図り、学習をサポートしたいという意向が聞かれた。学習計画については、まだ1学期が終了した時点のため、そこで立てた目標をどのように2学期以降の学習に結び付けていくのが、今後の鍵となる<sup>7)</sup>。

### 5.2 フィードバック：内省する力

【内省する力】に関して、1学期終了後の2010年8月21日のフォローアップ研修で多くの学習者は「Some Achievement」に留まっており、「Outstanding Achievement」まで達成できている学習者は非常に限られていることが報告された。以下に、実際に学習者が記述した内省の事

例を2件、示す。

事例1：学習者の内省（MN 高校／4年生）

Unit 1 Session 2 (July 6, 2010) : Today in our Nihongo class, I really learned a lot. To start with, our teacher taught us some ways on how to introduce ourselves in Nihongo. “Konnichiwa. (name) desu. Firipinjin desu. Douzo yoroshiku.” It was nice knowing how to introduce myself in Nihongo. I’m really looking forward to know more about Japan, its culture and traditions and especially its language. I think all of these things will be useful for us in the near future, especially when we go abroad and meet different people that we have to mingle with.

事例2：学習者の内省（MK 高校／3年生）

Unit 4 Session 1 (August 6, 2010) : Today, we had S-sensei and R-sensei as our teachers. We also had H-sensei and M-sensei. I learned different greetings used world wide. Example : ciao (Italy). And I learned the formal and informal words in Nihongo. Example : Ohayoo gozaimasu → Ohayoo!-J ☺

事例1の学習者は授業で何を学んだのかを書き、その授業に対する気持ちも記述している。それだけではなく、授業で学んだことが将来どのように役立つと思うかについても書き表している。一方、事例2の学習者は授業で何を学んだのかを例を挙げて記述しているが、授業に対する気持ち、問いかけ、アクションプランなどについては何も記述していない。表2のループリックに沿うと、事例1は「Outstanding Achievement」となり、事例2は「Some Achievement」となるのだが、教師によると多くの学習者の内省は事例2のようであるという。

現場教師とのディスカッションを通して、下記のような理由が浮かび上がった。一つは、学習者が授業に関する内省を書くのにまだ慣れていないことである。特に、1年生や2年生の生徒にその傾向が顕著にみられる<sup>(8)</sup>。そして、学習者にとっては自分の考えや気持ちを言語化することが難しいということも挙げられた。さらに、学校に派遣されている日本人教師<sup>(9)</sup>にも学習者が書いた内省を読ませたいとの理由で、いくつかの高校では内省を記述する言語を学習者に選択させるのではなく、英語で書かせているところがあり、学習者が自由に自分の考えや気持ちについて表現できていない可能性があるという例も聞かれた。

対応としては、ループリックの内容自体を見直すことが考えられたが、学習者が「Some Achievement」に留まっているのは学習者自身、そして教師の不慣れが最大の原因であり、一年の四分の一が終了した時点でループリックの内容を見直すのは早計であるとの意見で一致した。本稿執筆時点では、ループリックで示されている目標は学習者にとって挑戦的であるが、達成が不可能な目標ではないとの見方が大勢を占めている。そこで、2学期以降は学習者の【内

省する力】を育成するために、「教師が内省の手がかりとなる質問を与える」、「授業が終わる前に授業で話したことや気づいたことをクラスでまとめてもらう」、「よい内省や悪い内省の例を見せる」、「教師自身の内省を一つの例として紹介する」、「学習者が自分にとって表現しやすい言語で書くことの徹底」などに取り組むことになった。

一方、現在のループリックを変える必要はないが、教材の各セッションの目標を見直し、深い内省が難しいセッション、深い内省が可能なセッションを明示化することが提案された。また、ループリックの記述文をより高校生にも理解しやすいもの書き換えることの検討、各セッションの学習内容の量を見直し、授業中に内省を書く時間を十分に与えることの必要性が指摘された。

### 5.3 フィードバック：管理する力

フィリピンの高校では他の教科でもポートフォリオ評価が取り入れられていることがある。そのため、学習者は比較的、このような学習の記録の管理には慣れている。しかしながら、『enTree』では「enTree book」が教科書の代わりを果たすものと考えており、全ての記録物が貼り付けられていることが要求されている。その点で、他教科のポートフォリオと異なる対応が必要である。毎回の授業で使う「J-Tree」も「enTree book」に貼り付けられているため、「enTree book」を毎回持参することが必須であるが、実際には雑誌が重くて持参しない学習者や、自宅やロッカーに忘れてくる学習者が見られるという。

教師からは、「【管理する力】は今後、社会に出ていくにあたり人として身に付けるべき力である。教師に言われてなくても必ず『enTree book』を持参するなど、行動に責任を持つ態度を身に付けるよう、学習者に働きかけていきたい」といったコメントが寄せられた。

## 6. 今後の課題

本稿で報告した実践は、日本語科目における言語力以外の力を可視化し、育み、そして評価することを目指したものである。高校で実際に授業を担当する教師からは、5章で述べたとおり、さまざまなフィードバックが寄せられている。フィードバックには、開発した評価ツールの信頼性、妥当性の検証のみならず、教師自身が実践を振り返り、実践手法を改善することの重要性、必要性を指摘する声が多い。評価ツールの妥当性については、本稿執筆時点では判断を下す時期ではなく、教師自身の実践を見直すことから始めるべきであるとの意見で一致している。このような考えを持つ教師たちと、今後も評価のあり方、評価ツールのあり方、評価者のあり方について、協働して検討していくことができそうである。教材開発者と現場教師の連携があつてはじめて、『enTree』の評価ツールは、真の意味で学習者の自律性を育むものになるであろう。

現在、日本語を学んでいる高校生からは「日本語の授業は確かに楽しく、日本語、日本文化、それに人生についても学べるけれど、簡単にいい成績がとれない」という声が上がっているという。ここには、筆記試験であれば勉強すれば高得点が取れるが、それ以外の評価については簡単ではないという本音が窺える。この発言から、報告者らが設定している目標はフィリピンの高校生にとっていい意味で挑戦的なものと受け取られていると捉えていいだろう。報告者らは現在、1年目の『enTree』の試行と並行して、2年目の教材の開発にも取り組んでいる。現時点で現場から寄せられたフィードバックを基に、2年目の評価ツールの開発と同時に個々のセッションの目標及び内容についても考慮しながら、開発を進めていきたい。


〔注〕

- <sup>(1)</sup> (財) 国際文化フォーラムのニューズレター『国際文化フォーラム通信81号』にパネルセッションの内容をまとめた記事が掲載されている。
- <sup>(2)</sup> フィリピンの学制は、6・4・4制で、小学校6年間、高校4年間、大学4年間である。
- <sup>(3)</sup> 報告者の他に、Junilo S. Espiritu、Bernadette S. Hieida、Alice Mary L. Itchonの3名も教材開発メンバーである。また、国際交流基金日本語国際センターの専任講師である藤長かおる氏から、シラバス開発時などにアドバイザーとして助言をいただいた。
- <sup>(4)</sup> 教材の開発過程や内容の詳細については、2010世界日本語教育大会の予稿集に掲載されている「フィリピンの高校生のためのリソース型教材の開発」を参照されたい。
- <sup>(5)</sup> 「Halina!」とは、「さあ、おいでよ!」という気持ちが込められたフィリピン語である。
- <sup>(6)</sup> 複言語主義を採るヨーロッパでは、欧州評議会が「ヨーロッパ言語ポートフォリオ (European Language Portfolio)」を開発しており、そこに「言語バイオグラフィー (Language Biography)」が含まれている。『enTree』の「Language Biography」は、それを参照して開発したものである。
- <sup>(7)</sup> フィリピンの高校は4学期制を採用している。
- <sup>(8)</sup> フィリピン教育省は、選択外国語科目は3年生、4年生を対象とすることを推奨しているが学校によっては1年生や2年生が学んでいるところもある。
- <sup>(9)</sup> School Year 2010-2011は、21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS Programme) で派遣されている若手日本語教師の3名が、マニラ首都圏の高校6校に派遣されている。

〔参考文献・資料〕

- 大船ちさと他 (2010) 「フィリピンの高校生のためのリソース型教材の開発」『2010世界日本語教育大会 論文集 予稿集』523
- 国際文化フォーラム (2009) 「21世紀を担う子どもたちに身につけてほしいもの—海外の小中高校における日本語教育の目標を通して考える」『国際文化フォーラム通信81号』
- トムソン木下千尋 (2008) 「海外の日本語教育の現場における評価—自己評価の活用と学習者主導型評価の提案—」『日本語教育』136号、27-37
- 春原憲一郎 (2008) 「技術研修生のための日本語研修における評価の観点—「技術研修生」が突きつける評価の課題群—」『日本語教育』136号、4-16
- 横溝紳一郎 (2002) 「学習者参加型評価と日本語教育」、細川英雄編『ことばと文化を結ぶ日本語教育』、172-187、凡人社
- Department of Education, Republic of the Philippines(2009). *DepED Order No.25, s.2009*, <<http://www.deped.gov.ph/cpanel/uploads/issuanceImg/DO%20No.%2055,%20s.%202009.pdf>> 2010年9月30日参照

資料1：評価シート (enTree Book)



## Evaluation sheet for “enTree book”

Name \_\_\_\_\_ Date \_\_\_\_\_

enTree 1

/40

**1. Promote here the entries, which you think are your best, original or most unique works, or the parts which you have innovated the most, etc.**  
 (e.g. I did my best to make my family tree in unit 5. I like it the best among my entries. / I did my best to make my “enTree book” colorful and interesting!)

**2. Evaluation (evaluator's name: \_\_\_\_\_)**

**2.1 Are all of the materials pasted in your “enTree book”? Write the number in the evaluation box. (20 points)**

Minimal Achievement (0)	Some Achievement (10)	Commendable Achievement (15)	Outstanding Achievement (20)	Next Step (20)	Evaluation
Less than 65% of materials are pasted.	At least 65% of materials are pasted.	All of the materials are in “enTree book”, but some materials have not been pasted and not properly ordered.	All of the materials are pasted on “enTree book”, and properly ordered.	In addition to all of the materials pasted on “enTree book”, original ideas are used to keep the “enTree book” clean and intact like using plastic cover, masking tape among others.	/20

**2.2 Are the titles and the learning dates written on each entry? Write the number in the evaluation box. (20 points)**

Minimal Achievement (0)	Some Achievement (10)	Commendable Achievement (15)	Outstanding Achievement (20)	Next Step (20)	Evaluation
No title of Unit and learning date is written.	Few entries have the title of Unit and the learning date.	Some entries have the title of Unit and the learning date.	All of each entry has the title of Unit and the learning date.	Besides the title of unit and the learning date, there are original ideas to look for a certain material easily like making tabs with the unit no. on it or highlighting the title and the date.	/20

**2.3 Evaluator's comments and signature**  
 (e.g. You have 6 siblings! I didn't know that. linna! Your family looks very close.)

**3. Signature of guardian; \_\_\_\_\_ date: \_\_\_\_\_**  
 Comments (if any)

**4. Signature of the teacher; \_\_\_\_\_ date: \_\_\_\_\_**  
 Comments (if any)

©The Japan Foundation, Manila





資料3 : J-Tree 抜粋

inTree

**My progress in learning Nihongo & Japanese culture!**

Name: \_\_\_\_\_

**Grow your J-Tree bigger and richer!**

Write down what you have learnt, what you have realized, and what you have discovered through a Nihongo & Japanese culture class! You can draw additional leaves if you like. Of course, you can also attach extra sheets of paper if your tree has grown too big!

Unit: \_\_\_\_\_ Session: \_\_\_\_\_ Date: \_\_\_\_\_

Tick the boxes if you can do the following tasks in Nihongo! Do your best to get to the top. As you climb up higher and higher, you will see a new world bloom forth before your very eyes!

Add words like "fluently", "with confidence" or "slowly" and the dates you wrote these words on the spaces provided, to describe your progress (EX. fluently [6/17/10]). Let's keep learning!

Write the names of languages you know on the water droplets. Linguistic knowledge is like precious water that helps your J-Tree to grow!

**Others:**

- ☐ I can sing (a) Japanese song(s) \_\_\_\_\_
- ☐ I can invite my friends to my home \_\_\_\_\_
- ☐ I can cheer my friends and reply if someone cheers me up \_\_\_\_\_
- ☐ I can say what I usually do in my pastime \_\_\_\_\_
- ☐ I can say my impressions about a particular subject \_\_\_\_\_

- ☐ I can say my favourite subject \_\_\_\_\_
- ☐ I can introduce my school \_\_\_\_\_
- ☐ I can exchange some info about my daily schedule with my friends \_\_\_\_\_
- ☐ I can say greetings before and after meals \_\_\_\_\_
- ☐ I can ask and talk about one's daily meals with my friends \_\_\_\_\_
- ☐ I can say what I like and ask what someone likes \_\_\_\_\_
- ☐ I can express my feelings of surprise, shock or nervousness \_\_\_\_\_
- ☐ I can express my apologies and gratitude \_\_\_\_\_
- ☐ I can say how old I am or how old someone is \_\_\_\_\_
- ☐ I can say my birthday and I can ask and say someone else's birthday \_\_\_\_\_
- ☐ I can introduce my family \_\_\_\_\_
- ☐ I can ask friends how they feel when they look sick or sad \_\_\_\_\_
- ☐ I can understand teacher's instructions like please listen in Nihongo \_\_\_\_\_
- ☐ I can greet when I've met someone \_\_\_\_\_
- ☐ I can react in Nihongo when someone says something \_\_\_\_\_
- ☐ I can do self-introduction by saying my nickname and my favourite word \_\_\_\_\_
- ☐ I can say my name and nationality \_\_\_\_\_

☐ I can read Hiragana \_\_\_\_\_

☐ I can write some words in Hiragana \_\_\_\_\_

The words I can write are \_\_\_\_\_

NAME \_\_\_\_\_

☐ I can write my nickname in Katakana \_\_\_\_\_

For every quarter, after the exam, reflect on what you can and cannot do at this stage. Then, think about and write your learning plan to further improve the things that you can already do and how to overcome the things that you still cannot do. Let's do our best together!

**What I can and I cannot do now:**

What I can and I cannot do now: \_\_\_\_\_